

科学研究費助成事業（特別推進研究）中間評価

課題番号	18H05214	研究期間	平成30(2018)年度 ～令和4(2022)年度
研究課題名	多階層オミックスによる卵子の発生能制御分子ネットワークの解明	研究代表者 (所属・職) (令和2年3月現在)	佐々木 裕之 (九州大学・生体防御医学研究所・教授)

【令和2(2020)年度 中間評価結果】 ※評価欄は、該当するものに「○」を付してください。

評価		評価基準
	A+	想定を超える研究の進展があり、期待以上の成果が見込まれる
○	A	順調に研究が進展しており、期待どおりの成果が見込まれる
	A-	概ね順調に研究が進展しており、一定の成果が見込まれるが、一部に遅れ等が認められるため、今後努力が必要である
	B	研究が遅れており、今後一層の努力が必要である
	C	研究が遅れ、研究成果が見込まれないため、研究経費の減額又は研究の中止が適当である
(意見等)		
<p>本研究は、卵子の形成や成熟、そして受精時におけるエピジェネティックス抑制型プログラムの仕組み解明を目的としており、計画された研究が順調に進行している。解析の対象として、当初挙げた6種類の関連因子のうち、1つはすでに他の研究室から報告されたために、残り5種類の因子をターゲットとする計画へと変更された。マウス遺伝子編集技術と全ゲノムレベルを対象としたマルチオミックスを組み合わせた解析により、従前の断片的なゲノム解析から提唱された通説を覆すような発見も得られており、これまで他の複数の研究グループから提唱されてきた互いに異なる仮説を統合して、統一モデルを創出できるポテンシャルが期待される。是非、早期の論文発表に繋げていただきたい。一方、当初の計画にあった数理モデリングについてはその成否の予測が困難であり、モデリング後の要素抽出などにはさらなる工夫が必要である。オミックス解析に必要な最先端機器の運用に関しては、本研究費による購入機器と所属研究機関における共通機器とを組み合わせた効率的運営が評価できる。</p>		